

第2回中野市美術館運営準備委員会 会議録（概要）

日 時	令和8年6月11日（木）14：00～16：00
会 場	中野市市民会館ソソラホール 会議室 201
出席者等	【委員】 別添名簿のとおり 【事務局】 宮澤文化振興係長、佐々木副主幹、市川副主幹、丸山主事、水橋学芸員
欠席者	なし
次第	1 開会 2 あいさつ 3 協議事項 （1）名称等について （2）開館時間及び休館日等について （3）展示物について 4 その他 5 閉会
資料	・ 次第 ・ 第2回中野市美術館運営準備委員会資料

【事務局】お手元の第2回中野市美術館運営準備委員会と書かれた資料をご覧ください。本日協議する内容は、1つ目として名称等について、2つ目として開館時間および休館日等について、3つ目に展示物についてということで、三つ目についてはこの次の会議で展示内容等を検討していくこととなりますが、後ほどタブレットを使って説明したいと思います。

早速、名称等についていくつかご意見いただきたく、名称等については、条例上で施設名ということで、仮にですが条例上は中野市美術館とし、そこに対して第1回目の意見を参考とすると、「中野市ふるさとくつろぎ美術館」や「中野市くつろぎふるさとミュージアム」や「中野市美術館〇〇ミュージアム」などが条例上の名称となります。例えば中野市市民会館でいうと、「中野市市民会館」が条例上の名称となっており、その後に愛称で「ソソラホール」というのがついています。

このようなパターンがありますが、今回は委員の皆様にもいろいろご意見いただきまして、いくつか候補を出していただいて、その後市の方でその候補に対してどれか選定できればと思っていますのでよろしくお願いいたします。

【委員】条例上に愛称も記載するのでしょうか。

【事務局】愛称は条例には記載されません。

【委員】市民会館を例えると、「ソソラホール」というのは条例には記載されていないということですね。

【事務局】名称が「中野市美術館」、愛称〇〇というパターンもあれば、例えば、美術館という名称ではなく、名称を「中野市文化芸術交流館」、愛称〇〇っていうパターン、その他、最初から愛称のような名前が正式名称に入っているような「中野市〇〇美術館」等様々なパターンが考えられます。愛称を募集する場合には、条例上の名称をまず「中野市美術館」や「中野市文化芸術交流館」と記載し、通称何と呼びましょうかというのを愛称について公募で出すというやり方もあります。

いずれにしても、この会で1つに絞るというものではありません。

【委員】ソソラホールもそういうやり方でしたか。

【事務局】そうです。ソソラホールの場合はさらにシンボルマークも募集しました。条例には記載されていません。

【委員】今日は条例上どんな名称が良いか。条例上の名称が漢字だけのものになれば、やはり愛称にはカタカナが入った方がいいのかなと思う。

【委員】前回の会議では、博物館法制度上の博物館の区分と現状の資料で、今回の美術館は、「博物館類似施設」に位置づけられるとうことを考えると、この（仮称）中野市美術館は感覚的に「美術館」には分類されないので、「文化交流館」程度の名称でよいのではないか。また「博物館類似施設」という立場からはっきり市民へ「登録博物館」のような美術館ではないと明確にするほうがよいという感じはしますね。

「美術館」と言ってしまうと、「美術館」とはこういった確たるものであると考えている方々もいらっしゃるのだ。

サイズ感的にも美術館っていうと、もっと大きいものをイメージしてしまうので、対外的にもそれぐらいにしておいたほうがいいのではないかな。

【委員】交流館という名称だと、美術作品が展示されているというイメージがわからない気がする。美術的なものは絵画だけではないと思うが、美術的なものを中心にイメージしてみると、「文化」交流館ではなく「美術」交流館みたいなほうがいいのではないか。

【委員】意見が拮抗しているようであれば、公募制の方が市民の方を巻き込んでできますね。

【委員】ネーミングライツだとなかなか中野市で手をあげる人がいないかもしれない。やはりスタートにおいては、市民の皆さんへ愛称などを募集したということが大事になるのかなと思います。その中でシンボルマークを募集すればいいかもしれないです。

【委員】例えば今回作る美術館と、図書館、オアシス公園の愛称を3つセットで決めてもいいのではないか。図書館があり、今回建設する芸術ギャラリーみたいなのがあれば、その中からオアシス公園が見えることで利用が増えるのではないか。

なんか三位一体のような感じがし、美術館だけ取り出すというのももったいないという印象を受けており、全部まとめてあのエリアに愛称をつけてもいいのでは。でも、どちらにしても建物には名称が必要です。全体でというのもすごくいいと思いますが、まずは建物をどう呼ぶかですね。

【委員】「ミュージアム」になると、どちらかといえば博物館のイメージが結構あると思います。「芸術」という言葉と、「美術」という言葉はどちらが適していますか。

【事務局】「芸術」に近いと思います。中野市では主に絵画、彫刻、木工作品や市民や子どもたちが作成したものを展示したりするような感じを想定することになるかと思います。「美術」となると、西洋から入ってきた言葉で、元々日本の美術はもっと広いものを対象にしています。そう考えると「芸術」とか「アート」という捉えの方が今の現代の感覚に

合っている。

【委員】条例上は「アート」を使用しても問題ないですか。

【事務局】条例上、建物の名称に入っても大丈夫です。

【委員】確かに「美術」だとちょっと狭いかなという気がしますね。

【委員】「アート」という言い方は良いなと思う。小中学生や園児が作った作品を市民の皆さんに見てもらったりする中で、交流をすることになると思う。「アート交流館」のような感じで、例えば、音楽を聞く交流の場みたいなのところのイメージというのもあるような気がする。

【事務局】いろいろなご意見がありますので、検討内容の名称は本日決める必要があるわけではないので、どんどん出していただければと思います。第5回目の会議でまとめたのを提示し、そこで再度ご意見いただければと思います。またこの委員会で名称の検討結果を1つに決める必要もないので、複数のご意見をいただければと思います。

【委員】資料に掲載されていた「ふるさと」は高野辰之さん絡みですか。

【委員】そういうわけではないのですが、子どもたちが高校を出た後市外へ出てしまっても、「ふるさと」を忘れないでほしい、またいずれ帰ってきてこの地域でこの地域を盛り上げるように活躍する、そういうふうになってほしいということです。結構学校関係だと「ふるさと学習」とか色々なことをやって中野市を知ることが大事にしている。

いずれ戻ってきても地域のために貢献する、力を尽くすということを大事にしているのが高野辰之のふるさとじゃないけれども、この中野市では大事にしていることかなと思っていたので「ふるさと」を入れました。

【委員】関係人口の言葉もありますが、ベースはやっぱり子どもたちに愛情を持ってもらい、「中野市」を外に出すしかない。「故郷」のふるさと」今はすごく大事だと思います。

【委員】この委員会の議論の範囲を超えるかもしれないけど、「ふるさと」という言葉を大事にするという意見もありました。

【委員】「故郷」のふるさと」って思ってもらえるようになるといいね。あの曲知らない人いないですもんね。

【委員】そこ大きいですね。「誰でも知ってる」というものがあるっていうのは。中野市って結構もったいないところあるような気がします。えのきとか。すごいシェアですもんね。

【委員】今日は決まらないので、いただいた意見をまとめて、最後にこういう感じでしたっていうことで話ができればと思います。

【事務局】現時点の意見をまとめると、中野市美術館と名乗るよりも、中野市アート交流館のようなイメージ。また、ふるさとや芸術やアートなどのワードを含められれば、広く考えるように。また別の意見では、あのエリア一帯が名称をつけられないかっていうような意見ですかね。

【委員】ユニークな名前にするのもいいなと思います。例えば、日本一名前の長い美術館だったらどうかと思います。ですが、それはもうありました。66 文字で大阪にありました。住所を連ねた名称でしたが、Web 検索すると「世界一長い名前の美術館」で出てくるので 66 文字より多い名称はどうかと思ったんです。メディアにも取り上げてもらえるかもしれないし、検索すると出てくるので人の目に触れやすくなる。ただ、デメリット的には書類記入の手間がかかってしまうところですかね。

私ちょっと 66 文字より多い文字数で、考えてみました。

「信州中野市 松に昔の風が吹く高く青い空にチョウゲンボウの雲切る眼下 ひかる川の恵みとみどり豊かな広大な地に建つ ゆったり時間の流れるみんなの美術館」というのが 66 文字より多く、名前だけで目を引きます。毎月 30 日はこの名称をカンペを見ずに言えたら、無料キャンペーンというのだったり面白そうなこともやれるんじゃないかと思います。逆に超短い名前とか。1 文字ですか。「び」とか。そんなところですかね。

【事務局】2 番目の議題について、開館時間および休館日等ということで、図書館と隣接している兼ね合い上、一緒にした方が良いのか、また別の日にした方がいいのかご意見をいろいろな観点からお聞かせいただければと思います。

【委員】図書館はランダムで休んでますからね。月末は休むとか。基本月曜休みですよ。

さきほどのエリアの話でいくと、全部が休みで何もないっていう方が全く人が介在しなくなる気がします。結構水曜日とか火曜日休みが多いですよ。

【委員】図書館と美術館は一緒に休みの方がいいような気がします。休みが違うと行きづらいついてことはないですが、どっちも行きたいっていう人には、こっち来たのにこっち休みだったとか思ってしまうんじゃないかって思っています。

ただ時間は、図書館と美術館が一緒にする必要はないと思っていて、図書館はいろいろな人が勉強しに來たりするところもあるので、遅くまでやっても需要があるからいいと思うんですけど、美術館ってなると、図書館と同じようにやる必要ないと思っています。夕方5時とかそのぐらいでいいのではないかなと私は思いますが、ただ休みは一緒の方が利用しやすいのではないかなと思います。

【委員】図書館協議会への説明会が別にあり、その中で、この場所を選んだ理由の1つとして、回遊性があげられた。その近辺での人々の動きの中から、この場所が良いというふうに説明されました。

人の動きが図書館と一致することも大切だし、同時にその設備のニーズや回遊性を考えたときに遠くへ持っていくよりも、近くの方が色々な施設を動く中で美術館にも足を運べる、という趣旨だったかと思うんですよ、私が聞いたのは。

そうすると、そういう動きの中で、実際に図書館と一緒にするのがいいのかとか、そうではないなと思っているんじゃないかとか数字的にも調査した関係でわかるかもしれない、ということで、それも1つの判断の中に入れていただければありがたいなということです。

ただ、おっしゃった通りに、図書館来たついでに寄るかと思い、閉まっていれば残念に思うが、それはあくまでも図書館に來た場合の話ではあるんですがね。

【委員】回遊性のあるパーソントリップ調査はやったことあるんですか。

【事務局】パーソントリップ調査は実施していません。市としては、図書館の本と美術、アートには融和性があるという考えで進めてきました。

【委員】展示スペースは別に休んでいてもいいですけど、喫茶スペースとかあった場合、行ってみたら展示は休みだけど喫茶スペースが開いていたらそちらだけ入るとか。そういうのはあると思うんですよ。

それとは逆に言うと学生が行ってみようと思ったときに、全部休みだったら行かないような気がするんです。だから私も行ったときに、社会教育施設がすべて休みだと言ったときにすごい落胆するんですよ。何も見るものがない。そこ目指して行っていなくても、全部休みだとすると、もうこの日は行かないにはなると思うが、2回目に行きたくなるかどうかというのは何か工夫がないと、もう1回行ってみようにはならない気がするんです。

【委員】基本カフェと美術館は時間や休館日は一緒ですか。例えば館は休館だけでも喫茶だけはやるということもできるんですか。

【事務局】それも含めてご意見いただければ。

【委員】誰がそれをやるのかということもありますしね。カフェはどこかに委託するのですか。

【事務局】いろいろなやり方はあると思いますが、例えば、カフェを含めた施設の管理・運営を業務委託し、その委託先の業者が、どこかのカフェ事業者と連携し営業する、または委託先業者が自らやる。または、美術館のカフェスペースだけテナントで貸し、業者に応募いただくとか、やり方はいろいろあります。

【委員】カフェだけで成り立つのは厳しそうですね。

【事務局】展示スペースは毎週この曜日、図書館と合わせて休みだけでも、カフェは月2回とか、そういうようなご意見もいただければ。

【委員】大体小学校とか中学校って水曜日に職員会議があって、子どもたち早く帰るので、そうすると水曜日に子どもたちが来やすいような運営にしていた方がいいかなとは思いますが。

【委員】月曜日に全面的にどこか合わせて休むとか、そういう学校との時間の兼ね合いもちょっと加味して、考えた方がいいかなとは思いますが。

【委員】小布施町に来たけど時間があるから中野市のおもしろそうな美術館に行ってみようという人もいるかもしれない。

【委員】駅付近の宿泊施設等にチラシ等おいていただいて、中野市の美術館に来る予定がない人も集客できればいいですね。

【委員】自分が市民なので市民の立場から考えていましたが、市外から来ることを考えると、何曜日が一番訪れる人が少ないですかね。

【委員】美術館とかだと水曜日や木曜日休みが多く、博物館も入れると火曜日休みとかも入ってきますね。

【委員】図書館と一緒に月曜日休みとかにしまうと、土日と連続して旅行に来た人たちが来られなくなってしまうですね。

【事務局】博物館ではシニア層の方は土日をずらして月曜日に来られる方も多いです。

【委員】市の博物館はいつ休みなんですか。

【事務局】火曜日ですが、祝日の場合は開館しています。

【委員】図書館は休み月曜日ですかね。自分はやはり同じ日に休みにした方がいいかなって思います。今部活は地域移行になってきて土日に活動する関係上、月曜日は早く帰って家で体を休ませる日とさせています。しっかり休む生活のリズムを作っていくということで、また火曜日から体力を回復して、ちょっと図書館行ってみようとか、自ら美術館に行ってみようとか、図書館で勉強してみようとか、いろんな形でやっていくというのも1つの方法としてもよいと思うので、月曜日がいいなと思います。

それと、オアシス公園のところって、結構近所の保育園や幼稚園がお散歩に行ったりしているんですが、図書館と合わせて月曜日休みにすれば、人があまりいないということで子どもたちを安全に遊ばせたり、休ませたりできるのではないかと思います。

【委員】とんでもない案ですが、休みにしなければいけないって決まりがありますか。業務委託でやるんだっていう話になれば、決まった受託者が工夫してもらって、要は1年中毎日開いてるぞといった日本一閉まらない美術館なんだというところも1つの売りになるかなと思います。

【委員】そんなとんでもない話でも業務委託だったらできるのではっていう話なんですけど、それこそセキュリティの部分にAIを入れたりして、最先端のものを入れるっていうふうにしたら絶対できると思います。

ランニングコストが安くなるよっていうのを考えていかないけないと思いますが、そこに対して人件費ではなく別で賄うということも一緒に考えておいていただきたいなっていうところですね。そうすると開館時間がこれ8時ですけど、9時まで開けといても何とかなったり。

【事務局】多分結構設計との兼ね合いも大きくなるかなと思うんですよねAIを入れるってなると、そうするとちょっと今の段階では現実的ではないかもしれませんが、ハードはハードで整備しておいて例えば後から入る業務委託の会社がそういう提案があつてこういうこともできますよってことであれば、その業者さんに例えばそういった工事をしてもらって運営してもらっても問題ないと思います。

【事務局】ずっと開けておくというお話がありましたが、一応美術品を飾るっていう機能上、

365 日開けることができない理由がありまして、美術品は展示し続けていると劣化してしまうので、展示替えっていう作業が発生します。展示替えするときに動線がしっかりわかれていれば、この部分は開けておいて、この部分は閉めるといったようにすることも可能ですが、現在の設計上、それができないので、必ず展示替えの期間はお休みをしなければいけなくなります。

【委員】毎日でも、この日だけはイベントで夜まで開いてますとかもありますよね。

【事務局】例えばカフェが夜だけバーになるとかですかね。

【委員】ちなみに会館休館日とかは条例に記載するものですか。

【事務局】中野市の博物館の例で言うと、条例では午後9時まで開館できることになっていますが、通常の開館時間は午後5時までで、何かイベントがあるときは遅くまで開けていることもあります。

【委員】では季節によって変えることも可能なんですね。

【事務局】条例を変えないといけなくなると大変なので、条例上は午後9時までにしておいて、冬場は早目の時間に閉館するという方法もあります。

【委員】先ほどの話でいうと、月1回24時間開館みたいなのを何か入れたいという感じがですね。

【事務局】開館時間の例外を24時間と記載するのではなく、その他市長が認める事項とする方法もあります。

意見まとめますと、図書館と合わせて月曜日がいいという案、子どものことを考えて水曜日を外すという案。それから無休にして、セキュリティを考えるとというような案、日を限定してナイトミュージアムのような形にするといった案ですかね。

【委員】時間や休みについて、この施設の一番メインの年代層はどこ絞るかによって、今の話は全部変わってくると思います。それが学生なのかそれとも学生でも小学生などかによって、その設計って変わると思います。

【委員】企画ごとには変わるのではないですかね。

【委員】 どう回遊させたいかとかもターゲットにする年代によって色々変わってきてしまうと思うんですよ。それによって時間設定も変わってくることになりますよね。

【委員】 当然お金取るんだよね。

【事務局】 入館料については次回以降にお聞きする予定ですので、いくらにするか、取るか取らないか決定したものではないです。

【委員】 子どもたちから毎回 300 円とか取る予定であれば、それは結構難しい部分もあると思います。そうすると、ターゲットをどうしたらいいのっていう問題がまた出てくると思いますね。

【事務局】 博物館の例で言うと、団体で来てくれる小中学生の比率はすごく大きいです。あとは県外市内含めて、それ以外に展示目的で来てくれる方、コアな考古学ファンの方はそういう方もいますが、意外と入館者数をいろいろ詳しく調べたときにポイントになるなと思ったのが、学芸員講座とかに参加してくれるリピーターの方たちは、必ず月に 1 回は来てくれて、入館者の中で見ると、結構なウエイトを占めています。

【委員】 そういう方が逆に今のその損益によつての名称とか、いろいろなところでの多分出し方も全部変わってくるので、ちょっとお聞きしたいのですが、誰に来て欲しいのかっていうところを設定することが大事になってくると思いますね。電車で来てくれる人だったり、市内のお子さんも大事ですよ。働く世代となると、20 代から 60 代ぐらいまで広い。現代アートなら割と若い人が好きっていうのがあるんですよ。

【事務局】 やはり先ほどおっしゃっていたように、年齢層が上の方っていうのは、宣伝しなくても本当にいろんなところから見つけ出し、そしていろんなところに行ってらっしゃるので、もうちょっと年齢層を下げた世代に来ていただけるよう、アプローチはしたいかと。

【委員】 自分で見てくださる方もありがたいんですけど、でもそこをターゲットにしちゃうと下げた層には響かないところもあるので、運営としてはやはりそこではない世代のところが、たくさん来てくれるようになったら、美術館に来ようと思う人口も増えると思うので、せっかく作るのであれば夢としてはそっちかなと思いますね。

【委員】 学校っていうのもある程度もうカリキュラムの中に入れてこられたりとかするっていう部分もあると思う。

【委員】 ターゲットの年齢層を下げるのはよいですが、どんなものを展示できますかって思

ったんですね。展示物の方向性が決まらなるとターゲットとかも決められないですね。

【事務局】3展示物について、次回の会議での検討事項ですが、第1回の会議で中野市が所有している美術作品について、どのような作品があるか分からないという意見がありましたので、お手元のタブレットの中に、まだ美術品台帳は未完成ですが、現在作成中の台帳資料の一部を用意したので見ていただき、次回の会議でご意見を頂戴したいと思っております。

【委員】うちの子は幼稚園児ですが、この美術作品を見ると泣いてしまうかも知れないなという世界観だから、ちょっと幼稚園児には難しいかなというのがあります。暗い世界観が多いから難しそうですね。

【委員】小学生でも難しいかもしれないですね。背景を知らないと楽しめなかったりするのでは。

【委員】お母さんが子どもを2人つれて、お金1000円払って入りますかといったら少し考えてしまいますよね。

【委員】何か学びながらでないと、多分美術って特に難しい気がしていて、見てすごいということはわかるんですけど、裏があってもう1回行こうかなとか。

【事務局】色んな企画の仕方があるから構成の仕方が難しいですね。テーマ決めてそこからピックアップしてくるみたいに。ジャンルでいっても日本画・洋画・版画・彫刻みたいな感じになっちゃいますけど、例えば菊地契月っていう作家でできますし、あとは中野だったら人形っていうテーマで、縄文時代の土偶から土人形を現代作家の作品みたいな感じで作るのも面白いかなと思いますし、作品自体を素材として、いろいろターゲットに合わせて企画を考えるというのも良いですね。

【委員】知り合いの農家の人が描いた絵もあるから、知り合いとかの絵とかでも見に行きたくなりますよね。

【事務局】松本市立博物館だと運営管理も含めて業務委託だけど、その展示企画を考える学芸業務のときは市の職員がやっています。上田市指定管理ですが、はほぼ丸ごとそこに市の学芸員が関わるとか、いろんなパターンがあります。

でも、その数で言うと、小諸市とか東御市とか若干同じぐらいの規模の市町村の市立美術館が約2000点の作品を持っていて、中野市の場合はそれに比べるとちょっと少ないんです

けど、この作品以外に今回図録の目録を入れさせてもらっていますが、旧山田家住宅っていう文化財が中野市にあるのですが、そこも 1,000 点以上の美術品を所有しているので、そういったところも今後活用しながらやっていければ、より充実した展示ができるのではないかと思います。

【委員】今のまとめていただいている絵画の関係で、個人的にも好きなものもありますが、全体的に見ると、一度ぐらいまでも見なくてもいいかなどうかなっていう感覚なんですよ。

【委員】1 番はどう人を呼ぶかで、年齢層もありますが、これを飾ると、市内だけじゃなくて、市外からも人が見に行きたいよって思えるものを展示していきたいですね。

【委員】企画次第な気がしますね。例えば、千曲川シリーズとか高社山シリーズとか北信五岳シリーズとか。

【委員】先ほど言った、それこそ関係人口じゃないですけど、来てみてこのデータベース見て、次これを入れてっていうのをなんか投票するというのもいいですね。

【委員】逆にデータだったら、全国に 1 回投げて、みんなから投票取れるわけじゃないですか。そういう仕組みにした方が、自分はあれを推したかもしれないっていうので、来るっていう方が 1 % でもいたら、結構変わってくと思うんですけど。

【委員】企画にね、人の意思を少しでも入れられるといいですね。

【委員】本当にデジタルアーカイブがしっかりしないとできないと思うんですけど。

【事務局】美術館に行って本物を見るだけでなく、色々なアクセスの仕方で、それを活用してもらえっていうのが必要になってくるので、デジタルアーカイブは市の担当課に情報を調べてもらったりしながら、検討はしているところです。

今日のデータは、もっといろんな情報が入ったしっかりしたブロックデータにはなっているんですけど、一般の方に公開するっていうことで、細かい情報は省かせてもらって、見づらい形での提供しかできないんですけども、ゆくゆくはその山田家の本みたいな目録が何かを作れるような、ちゃんと撮影も含めて。何十年前の写真を使っていたりするので。

【委員】そこは全然いいと思うんですけど、デジタルアーカイブを作るときに何が一番大切かって、色の絶対値取らなきゃいけないじゃないですか。それがとってあるかどうかだけ。そこで撮り直すっていうのはあるかもしれないけど、どこに行っても出してもいいし、どこ

に貸し出してもいいしみたいに結構循環は起きると思うので。

【委員】市内の美術の授業の中に入り込んでいってもら体制を作ってもらもの、この美術館が回ってくシステムにもなると思うんですけどね。

【事務局】今年度なんですけど、市内の小中学生向けに美術品をデジタルデータと訪問も含めて、学校の方に持って行って、長野県内でシンビズムっていう学芸員のネットワークがあるんですけど、美術館の開館も踏まえ、そこと連携して、小学生向けに対話鑑賞をやっていく予定はあります。

【委員】それ大事な話なんだよね。学校のプログラムでっていうのは。結局地域にどう密着させるかという話になる。だからこの施設もそういうふうに育てられるように、今おっしゃった、学校との取り組みは大事なことだなと思って聞いてました。

【委員】子どものときにそんな経験してる、うちの街に面白い美術館があったっていう記憶にちょっと残るだけ大きいですよ。

【委員】関わったっていう経験はめちゃくちゃ強いですよ。

【委員】離れてしまうと美術館博物館って見には行ったけど、何か見たなという程度になってしまいますけど、関わったっていうのはとても強いと思う。

【委員】一般の方に美術館の展示スペースを貸すという考えは今のところないんですか。

【事務局】現時点では想定していません。一本木公園の展示館や陣屋やソソラホールにも貸しスペースがありますので、貸しスペースではなく市が実際に展示できるものとして、というのが今回の美術館です。ただ、市の企画として、何か市所有以外のものを展示するという企画であれば別です。

【委員】中野市所蔵作品だけでも、何年かはそれでいけると思うんですよ。ただもう絶対数がこれだけなのでネタが尽きるし、人を呼べる企画を次々打ち出すだったり、人を呼ぶっていうことを考えると、ざっと見たときは弱い。企画は企画でももちろん、学芸員中心にがっちりやってもらって、年に何本か企画を立て、その間のハブになるようなものを一般の方に貸してレンタル料を得て、休館日の話もあるが回していくというような可能性も模索した方が両方からお金をきっちり取れると思いますけどね。

【事務局】近隣の市町村の美術館の場合で言うと、山ノ内町とか飯山市は、作家さんに貸しスペースではなくて、美術館の自主事業なんですけど、作家さんにかなり入ってもらって企画展を作ってるっていうやり方をしているそうです。そういうのは中野市でもやっていけたらいいなとは思ってるんです。もし作家さんや市民の方に、貸館として利用してもら場合、一本木の展示館もそうなんですけど、備品とかサポート体制もしっかりしてないと使ってもらいづらいなっていうのは感じていて、ある程度の技術とか、ワイヤーフックを自分で持ってますみたいな人とかであれば特に心配ないと思うんですが、そうじゃない人に貸すってなったときの、こちら側のサポート体制みたいなものはある程度整ってないと使ってもらいづらいだろうなと思ってはいますね。

【委員】そういうところを借りるということは、借りる側からすれば結構覚悟だと思うんです。ただ、そこで測れるので、一つの指標になりそうな気がしますけど。

【委員】あんまり中途半端な半プロみたいな人に貸したりとか、誰でもいいわけじゃないと思うから、それなりにきっちり払っていただけるような体制であれば、貸してもいいとは思いますがね。

【委員】ある美術館の展示スペースを借りたことがあったんですけど、最初に全部展示についての説明がありました。壊さないとか安全管理とか、これきっちりやってくれなければ貸さないよという書類にサインをして、返すときも全部綺麗に整っているかチェックをしていただく。でもその説明だけで館の方が見てくれたり、手を貸してくれたりとかはなく、自分たちだけで展示したんですね。

その一方で、県内の別の施設ではレイアウトは自分で考えたんですが、実際の展示はその施設の方が引き受けてくださった場所もありました。

自分たちも関われる場所がある、発表の場が持てるっていうのは市民にとっても一つのモチベーションにもなるだろうし、また陣屋などでやるより美術館だと違うじゃないですか。ライティングも違いますし。

【事務局】別紙資料で、ある県内美術館の1年間のスケジュールと配置図をお配りしました。収蔵作品だけを使った企画展を今年に4回開催しており、その展示室はこの美術館の中では一番小さい展示室にはなるのですが、約400平米弱あるので、建設予定の中野市美術館はこれの約半分ぐらいの大きさになります。今資料の美術館で展示しているのは約400平米の中に61作品を展示してる感じになってるので、中野市の場合ですと、この半分ぐらいの展示になるかなというイメージで考えていただければいいかなと思っています。

日本画や洋画により展示する期間の推奨期間が決まっていて、日本画だと最長2ヶ月ぐらいがいいんじゃないかということになっていて、重要文化財だと1ヶ月とかもっと厳し

い条件になってくるんですが、一般的な美術館は、大体2、3ヶ月で展示替えをしていますね。洋画の場合は、3ヶ月とか半年ぐらいまで油絵は、1年間展示したりするんですけど、そういうのも考えて、今のところ中野市は日本画の作品がメインになってくるかなと思うので、あまり長い期間展示しっぱなしっていうのはできないようにはなりますね。

【委員】最初のオープニングの時に、おおまかな年間のスケジュールが出せるといいですね。あとはその間に企画展をしていくという感じで。

【事務局】中野市だと、収蔵庫が建物内にないので、ある程度は天候とかも考慮しながら長めに展示替えの期間を取らないといけないかなって思っています。

【委員】冬とかは展示替え大変そうですね。

【事務局】そうですね。雪が降るので。

観光シーズンの夏から秋にかけて長期間メインの展示をやって、春先の気候がいいときは日本画にして、だとか、冬は若手の作家さんの展示等、ざっくりとそういう感じでできると条件的にいいのかなと思っています。

【委員】冬はチャレンジ作家にやってもらうとかもアリですね。

【委員】休館日は結局展示替えがあるから、館の中の展示スペースは閉めておいて、カフェだけは開けておくという感じにできそうですか。

【事務局】導線の関係で、展示替えのときはカフェも閉めてもらったほうがいいですね。搬入・搬出のときだけ1日休みしてそれが済んだら営業してもらってもいいとは思いますが。

【委員】1週間カフェ休みだと厳しいですよ。無収入になってしまうので。カフェを営業している側が厳しいですよ。

【委員】実働3週間で目標金額達成しなきゃいけないことになってしまうので。そうすると、手を挙げる業者さんもいなくなってしまうそうですね。

【委員】展示替え時、カフェ利用者と導線が重なってしまうのはどこなんですか。

【事務局】入口が1ヶ所しかないので入り口になります。

【委員】でも、座るカフェスペースは通らなくても運べますよね。

【事務局】ただお客さんが行き来してる中で、大事な作品を移動させなくてはいけないので避けたいです。

【委員】誘導する人がいれば大丈夫そうではないですか。確かに見たことない風景にはなるんですけど、警備員的な方がついて、お客さんに声をかけたりする人さえいれば休まなくても一応なんとかなりますかね。

【委員】カフェのオープン時間は開館時間とイコールでなくてもいい気がするのですが、先に搬入・搬出して、そのあとカフェをオープンするとか例えば11時オープンとかでも。

【委員】時間でうまくできればいいとは思いますが。

【委員】そのカフェ運営しているところ、手が上がらないとかっていうところをやっぱ考えないといけないのではないですかね。

【委員】その話は私も重々したのですが、そのカフェの運営について課題と思ってる場所が一つあるんですけど、そのカフェが予定ではフリースペースでもあるというところでもあるので、ワークショップをする場所でもあるし、例えばカフェで何も買わずにそこに滞在してもいい場所でもあるので、いろいろな機能が盛り込まれていることで考えるとなかなか難しいとことではあります。

【委員】チャージ料をとるとか。

【委員】入った以上、絶対ワンドリンクにするとか。それないと本当にただただ使われちゃうと思いますよ。

【委員】例えば月曜日だけフリースペースになるとかもアリですよ。図書館が開館していない時に、勉強する場所がないからその場所として使ってもらうとか。

【委員】美術館のような施設とカフェが成り立っている事例とかはないんですか。

【事務局】例えば、県内のある市の市民交流センターですけど、図書館が併設していて、人気のカフェベーカーリーが入っていて、そこはたくさんの方が訪れていると聞きました。

【委員】やっぱり有名どこでないと惹きつけられないかもしれないという感じなのですか

ね。

【委員】カフェの方で採算取ろうとすると、1日かなりの人数来てもらわないと難しいかもしれないですね。列が出来てしまいそうですね。カフェの内容としても人を呼べるものじゃなきゃ駄目ということですね。

【委員】中野市がどういう条件で業務委託を出すかによって売り上げをどのくらいにして考えればいいかというのも変わってきそうですね。

【事務局】仮にですが、市内のお店でもいいですし、近隣市町村にある遠方からも人が訪れるような有名なお店に入ってもらったとしたら、人は来ると思いますかね。

【委員】来ると思いますよ。

【委員】中野市にもとても美味しいケーキ屋さんはたくさんありますよ。新しくできたカフェもあるので。

【委員】市内のお店と近隣市町村の県外の方にも有名なお店と比べてしまうと、やっぱり後の方がブランド力みたいな知名度はありますよね。もちろん市内のお店もとてもおいしいんですけど。

【委員】知名度やブランド力目当てに市外から来てもらうっていうのも何か違うような気がするんですよね。

【委員】喧嘩をするかもしれないですけど、各店舗の今日のケーキが三つぐらいあって、選べるとかだと良さそうですね。ここだったら選べるから今日は選びたいねっていうことで来るとか。

その仕組みの中で市内のお店もあり、近隣市町村の県外の方にも有名なお店もありというのもいいですね。

【委員】カフェはカフェでいいんですけど、肝心の美術館の方にどう入っていくかっていうこともありますよね。ただ、まずはそこに来る仕掛けを作らないとそこから先に興味がわからないのでね。

【委員】個人的にはカフェにケーキみたいなものがあるよりも、郷土料理あった方が私は食べたいです。なんか家では作れないので。この間私初めてネマガリダケをおばあちゃんに教

えてもらって作ったんですけど、そういうのを観光っていう部分も含めて、そんなに手の込んだ郷土料理じゃなくてもその季節のものを食べられたりできるのも、いいなあというように思いました。ケーキは美味しいお店いっぱいあるからそっちに行けばいいかなみたいな気持ちにもなります。

【委員】若い人はそうなのかもしれないけど、上の層の人たちは自分の味がありますからね。

【委員】観光とかでないとそれを食べたい人はいないかもしれないですね。でも、例えば、ランチをワンプレートで、そうやっていろんなものを出したらいいのではないですか。行く側からすれば、そういう付加価値があればカフェだけでも行くかなとは思いますがね。

【事務局】カフェだけでもいけるようなものであると、結果として利用者増にも繋がるというところですかね。

【委員】景色を楽しみながら、ランチとかカフェとかっていうのは、女性としては惹かれます。

【事務局】400 平米ほどの美術館へ視察に行った際、個人でやられている美術館だったのですが、併設のカフェが人気で、予約の方とかもいらっしゃいました。庭を見ることができるようカフェになっていましたね。その空間が好きで来ているのだと思います。

【委員】建設場所のベンチはどうなるのですか。

【事務局】移設予定です。移設先は今後決めていきます。

【委員】垣根もそのままにしておくようになるのですか。

【事務局】そうですね。造成し直すってことじゃないということで。ただ工事車両等搬入物問題もあるので、そういった車両が通るところは伐採したりとかはありますけれども。

多くの意見が出ましたので事務局でまとめさせていただき、次回の会議で資料としてお出しします。

では以上で第2回中野市美術館運営準備委員会を終わります。